キャラクター名
ケルシー

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス ハヌマーン	ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	R災害対策部隊”ペテロ”隊長
オプショナル	ブラム＝ストーカー	年齢	27	性別	女性
覚醒	償い	衝動	殺戮	初期侵食率	36 %
出自		経験		邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1	0	0			1
感覚	1	0	0			1
精神	2	1	0			3
社会	4	0	0			4

HP	25
行動値	17
(非装備時)	17
戦闘移動	22
全力移動	44

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転：			芸術：			知識：レネゲイド	2		情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
強制解放剤		0				コスト12 対象：3体 ラウンドの間、対象が行う攻撃の攻撃力を+33し、ドッジダイスを-2個する。
強制解放剤（↑100）		0				コスト12 対象：4体 ラウンドの間、対象が行う攻撃の攻撃力を+39し、ドッジダイスを-2個する。
指令：メルトダウン	ＲＣ	3r+1		20		コスト11 対象：戦闘（選択） この攻撃に対し、対象はドッジを行えない。この攻撃によるダメージは装甲値を無視して算出する。
指令：メルトダウン（↑100）	ＲＣ	3r+1		26		コスト11 対象：戦闘（選択） この攻撃に対し、対象はドッジを行えない。この攻撃によるダメージは装甲値を無視して算出する。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
サングイン	
ハイペリオン	
情報収集チーム	
採取キット	
作戦記録レポート	
応急手当キット	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
生還者	P	N		
ディラックの渦	P 使命感	N 〇脅威		
奈雪	P〇好奇心	N 無関心		
フィオナ・リンドブルム	P〇連帯感	N 不安		
楔石-ウェッジ-	P 〇執着	N 不安		
トラロック	P 好奇心	N〇敵愾心		
オスロー	P 〇同志	N 猜疑心		

最大財産P: 10	残り財産P： 8

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
先手必勝	4							
効果：								
活性の霧	4	3						
効果：								
鮮血の奏者	2	4						
効果：								
エクスプロージョン	2	3						
効果：								
ツインバースト	2	3						
効果：								
サイレンの魔女	2	5						
効果：								
タブレット	2	2						
効果：								
多重生成	2	3						
効果：								
声なき声	1	-	ﾒｼﾞｬｰ	視界	ｼｰﾝ（選択）	自動	-	
効果：自らの思念を離れた対象に伝達するｴﾌｪｸﾄ。								
真偽感知	1	2	ﾒｼﾞｬｰ	視界	単体	自動	-	
効果：対象の声音から嘘を見抜くｴﾌｪｸﾄ。								
効果：								
効果：								
効果：								

かつて、少女はレネゲイド災害に巻き込まれ、唯一の生き残りとなった。
そこから、彼女の人生は贖罪となったのだ。

◇元研究者
元はレネゲイドの研究者としてUGNに所属し、レネゲイド災害を専門として研究を行っていた。
ある時、コーンウォール市が”ディラックの渦”と呼ばれる蒼き渦に覆われた際、レネゲイドへの高い見識と指揮能力をアクシズ評議委員”ヒューゴ・ベルクーリ・オスロ―”により見出だされ、R災害対策部隊”ペテロ”の隊長に任命される。

◇R災害対策部隊”ペテロ”隊長
普段の彼女の淡々とした口調は冷たい印象を抱かせているが、実際は研究者としての物の見方からくる極めて論理的かつ徹底的な語り口調が現れているだけである。

戦闘では改造従者"Mon3tr"を介し、本来『粒子』又は『波形』のどちらかの性質を状況に応じて示す電子をその二つの中間である『曖昧なまま』の状態に固定し、強制的に操ることができる。
本来『粒子』又は『波形』のどちらかの性質を状況に応じて示す電子をその二つの中間である『曖昧なまま』の状態に固定し、強制的に操ることができる。
『曖昧なまま固定された電子』は『粒子』にも『波形』にもなれないため、その場に「留まる」性質を持つようになる。
この「留まる」性質により質量を持たない電子が擬似的な壁となり、『曖昧なまま固定された電子』を強制的に動かし放たれた速度のまま対象に叩きつけることで、絶大な破壊力を生み出す。
極めて雑な表現をすると「全身からビームが撃てる能力」だと思っていただければ概ね間違いない。